

2017年(平成29年)4月5日 水曜日 京都新聞 丹波版

「亀岡市の魚」アユモドキ

保津川乗船場で展示

亀岡市は、国の天然記念物アユモドキの保全を広く呼び掛けるため、同市保津町の保津川下り乗船場で飼育・展示を始めた。

アユモドキはコイ目アユモドキ科の淡水魚で、市内では保津川水系に生息している。環境省レッドデータブックで絶滅危惧類になっている。今

月1日に「市の魚」に定められたことを踏まえ、安町の市役所で飼育中の一部、40匹を移した。

保津川下りは国内外から毎年約30万人の観光客が訪れるといい、貴重な地域資源を持つ保津川の魅力発信にもつながる。

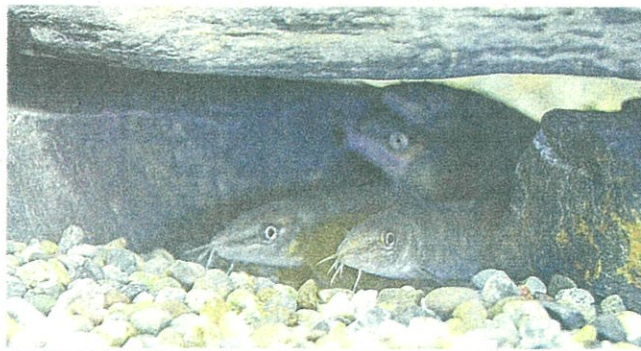
水槽では、体長約5センチの稚

保全広く呼び掛け

魚が草や岩陰に隠れながらも活発に泳いでいる。アユモドキの特徴や保全の取り組みなどもパネルで紹介している。

多くの観光客が足を止め、貴重な魚を觀賞している。広島市から訪れた三川恭子さん(71)は「初めて知ったが、かわいい姿で、みんなで守ろうという意識は素晴らしいと思う」と話していた。

(森大樹)



①保津川下り乗船場で展示している水槽の中を見てアユモドキを探す観光客たち(亀岡市保津町)
②岩場に隠れるアユモドキ